若者世代の視点から、「自分たちができること・やってみたいこと」などを考えました！

令和5年1月12日（木）18：00～19：30
花巻市定住交流センター | なはんプラザ

花巻市では、新たな「まちづくり総合計画※」の策定に向けて、市民の皆さんと一緒に、市が目指すべき理想の姿や、そのために必要な取り組みについて話し合いをするためのワークショップを開催しました。

高校生から22歳までの方が参加する【若者部門】では、1月12日に最終回を迎え、32人の参加者のうち、23人の方にご出席いただきました（うち2人はリモート参加）。

今回は最終回として、これまでのワークショップの内容を振り返るとともに、「自分たちができること・やってみたいこと」をテーマに、自分たちがこれからまちづくりに関わっていく具体的なイメージを膨らませました。

※まちづくり総合計画とは？

花巻市をどのような「まち」にしていくのか、そのためにどんなことを実施していくのかを、体系的にまとめたものです。

花巻市に住む人が「住んで良かった、住み続けたい」と思えるよう、これからのまちづくり総合計画は、市民やさまざまな団体などと協力し、みんなの力でつくりあげていくことが大切です。多くの方の声をまちづくりに反映させていく、まちづくり総合計画にはそのような大切な役割があります。

第3回ワークショップの流れ

はじめに、これまでのワークショップで検討した内容をスライドで振り返るとともに、前回（第2回）でまとめた「戻って来たい（住み続けたい）まちから見てきた将来の花巻市のありたい姿」を確認しました。

「戻って来なくなる（住み続けたい）花巻市」を実現するために、「自分たちができること・やってみたいこと」、「そのために行政や大人に助けてほしいこと」などについて一人ひとりのアイデアをグループで共有しました。

他のグループを自由に見て回り、特に共感するアイデアにはシールで意思表示。最後に、他のグループではどのような意見があったか、どの意見に共感が多かったかをグループごとに振り返りました。

「将来の花巻市のありたい姿（第2回検討）」と、その実現のために「自分たちができること・やってみたいこと」「行政や大人に助けてほしいこと」

※一部抜粋

自分たちができること・やってみたいこと

- 若者が活躍できるイベントを開催する！
- SNSを使って花巻市をPR！
- イルミネーションをつくる！

最先端を走る若者が
主人公になれるまち、
市民みんなが
温かく暮らしやすいまち

- 若者が行うイベントの開催を支援する

- まつりに参加して伝統を受け継ぐ！
- 交通ルールを順守する。自分で交通安全の意識をもつ！
- 若者主催のイベント、ごみひろいのイベントを開催する！

安全安心な環境があり、
昔からあるものを大切にする
にぎやかなまち

- 若者向けのにぎわいづくりの取り組みを進める
- マルカンビルなどを活用し、参加したくなるイベントを増やす

- SNSや若者が集まる場所で花巻のことをPRする！
- BBQやカフェなど花巻の自然や農産物を使ったイベントを開催！

花巻 Future クラフト
～みんなの手で～

- 学割など学生がカフェに集まりやすい環境をつくる
- インターネットを安全に利用するための講習を開催する

- シャッター街を活用するために、若者がSNSなどで寄付金を集めたり、魅力をPRする！
- 花を植え、花の街をPR！

にぎわいと安心・自然を活かすまち
互いに認め合い、思いやりのまち

- 歩行者が安全に歩けるように道路を整備
- シャッター街の活性化のための協力

- 若者が気軽に行けて楽しめるようなイベントを考える！
- 自分たちが花巻市への理解を深める！
- まつりに観客や運営として参加する！

安心・安全！唯一無二！
いつまでも好かれるまち！

- 道路の危険な箇所の確認や街灯の設置

- 若者で街を良くするためのグループをつくる！
- 自然を大事にする！
- 地域で木・花を植える！
- イベントに友達と一緒に参加する！

若者の欲望が集まる自然といやしがあふれる
WinWin なまち！
イベント、伝統芸能が
受け継がれるようなまち！
安全と施設の外観に配慮できるようなまち！

- シャッターを活用し、スプレーアートなどのフォトスポットをつくる
- 街中にゴミ箱を設置

ワークショップを終えて

今回のワークショップは全3回の総まとめ。これまでの議論でイメージを形作ってきた「将来の花巻市のありたい姿」を振り返り、そこへ向かっていくために自分なら何ができるかを考えました。若い世代の方々に、まちづくりを「自分ごと」として捉えていただく機会になったと同時に、そのような皆さんの思いを、私たち大人はどのように応援していけばよいかなどを教えていただく場にもなりました。

若い世代の方々の視点を取り入れ、その感性を活かしながら、新しい総合計画の策定作業を進めていきます。ご協力、大変ありがとうございました。